留学だより　No,4　From MICHIGAN USA　2019.11

皆さま、こんにちは。

十一月のミシガンは、雪が降りはじめ、一晩で 20 センチも積もり、辺り一面真っ白な雪で包まれています。最高気温が－5 度、最低気温が－14 度という日もあり、そんな日は、室内はとても暖かいのですが、登下校に手袋・帽子・スキーウェアやスノーブーツを着込んでいます。東京で経験したことが無いような、さらさらとした粉雪で、水分が少ないパウダースノーです。緯度は北海道と同じくらいのミシガンですが、例年では雪はまだまだ先のことらしく、友人も早い冬の到来に驚いていました。

十月の最終週は、町全体がハロウィンで賑わっていました。学校で仮装をする人は少なかったですが、以前「日本の高校生の格好をしてみたい」と言っていた友人に、日本の制服を貸したところ、とても喜んでくれました。また、ジャック・オウ・ランタンの装飾を校内に飾るボランティアでは、オレンジの折り紙で風船を折って、顔を描いたカボチャが思いのほか好評でした。小さい頃から馴染みのある折り紙を、同世代の子に教えるのはなんだか不思議な感じがしましたが、みんな何度も折って作り方を覚えてくれて、日本の折り紙を知ってもらう良い機会になり嬉しかったです。

ハロウィン当日は雪だったので、trick or treat は十一月初旬に延期され、私はホストファミリーの家で、お菓子をあげる側での trick or treat をしました。地域の家を回って、次々に家にやって来る小さい子たちが、色んな仮装をして一生懸命お菓子を抱えてやりとりする様子が可愛かったです。

教室や廊下中に少しずつ分けて飾りました。

もちろん本物のカボチャも飾ります！

先日、英語劇“our town”という 90 分の作品に、メンバーの一人として二夜に渡り出演しました。

100 年以上前のアメリカの小さな町を舞台とした三部構成の物語です。第一部‘Daily Life’では主人公の女の子の淡い初恋、第二部‘Love and Marriage’では結婚までの道のりを描きます。第三部‘Death’では、主人公が 26 歳という若さで亡くなり、一日だけ昔に戻ることを許されます。自身の死と葛藤するうちに、何気ない日々がいかに素晴らしいものだったか悟る様子を描いています。

笑いどころが多く、感動するシーンもあり、家族について、自分の生き方について、改めて考えさせられるようなストーリーでした。一日目の金曜日の観客席には学生が多く、終始笑って楽しそうだったのですが、二日目の土曜日は地域の方がほとんどで、感動で涙される方も多くみられました。同じ劇でも見る人によって捉え方はこんなに違うのか、と驚きました。

九月中旬に飛び入り参加でオーディションを受けてから毎日、放課後に 15 時半～17 時(直前の時期は 18 時まで)の練習を重ねてきました。劇の練習後に、マーチングの練習が 18 時～21 時にあった時期はかなり忙しかったですが、充実した時間を過ごせました。

練習の時にメンバーの一人が、「母語が英語の私にとっても、セリフを覚えて演じるのは難しい。あなたが外国語で劇をしているのは凄いことだと思う」と言ってくれたことがありました。他にもメンバーの皆と様々な経験をし、一つの作品作りに携われたことは、私の中で大きな思い出の一つになりました。

留学生が私のほかに一人も居ない中で、温かく迎えてくださった先生方やメンバーに感謝しています。

素敵なメンバーとの出会いが沢山ありました/第二部の最後、結婚式のシーン/メンバーが私のロッカーにサプライズしてくれました！

最近の学校生活には特に大きな変化はなく、淡々と過ごしています。十一月現在、留学生活も三か月目となり、少しずつ生活リズムが固まってきた気がします。

日々の中の些細な変化も楽しみつつ、今後も頑張ります。

田中